

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は悪化しつつある。

- ・ 観光は弱い動きとなっている。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化している。

前回調査からの主要変更点

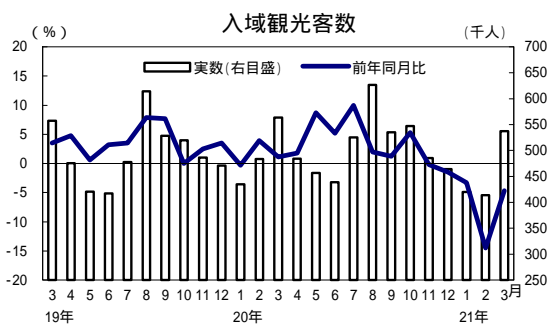
	前回（平成21年2月）	今回（平成21年5月）	
景況判断	弱まっている	悪化しつつある	
観光	このところやや弱含み	弱い動き	
雇用情勢	急速に悪化しつつある	急速に悪化	

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は弱い動きとなっている。

入域観光客数は、1月はビジネス需要や団体旅行が減少したほか、ウォン安の影響で韓国からの観光客が大幅に減少したため、前年を下回った。2月は前年（うるう年）と比較して1日少なかった上に、円高による海外旅行との競合の影響、前年2月にあった旧正月（春節休暇）が今年は1月だったことなどが重なり、国内客、外国客共に前年を大幅に下回った。3月は沖縄国際映画祭の開催などがあったものの、景気悪化による旅行市場全体の冷え込みなどにより国内客は前年を下回り、外国客についても、大型クルーズ船の寄港が少なかったことにより前年を下回った。

主要ホテルの客室稼働率は、入域観光客数の減少、景気悪化による企業の団体旅行の減少、新規ホテルや旅館の宿泊施設数の増加に伴い、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年を下回った。



入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

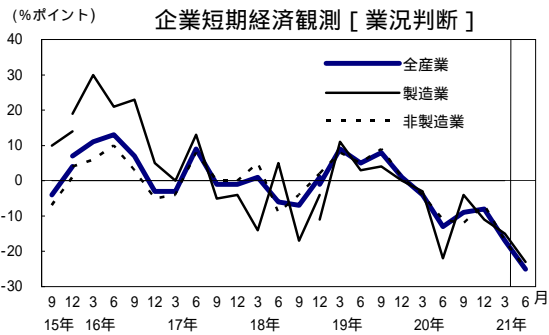
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月
入域観光客数	1,380	1,687	1,497	1,371
(前年比)	5.1	4.1	1.3	7.5
ホテル稼働率	69.9	81.1	71.7	70.2
(前年差)	1.8	0.5	0.6	8.0

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光商工部調べ。

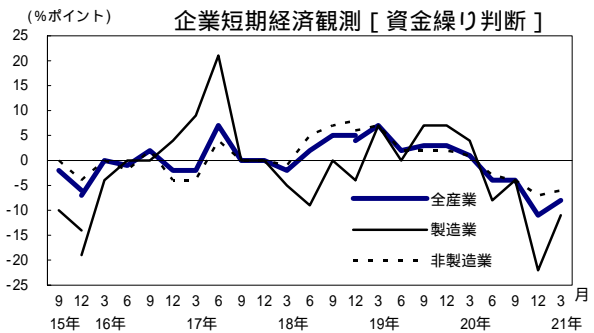
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。調査対象は43ホテル。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

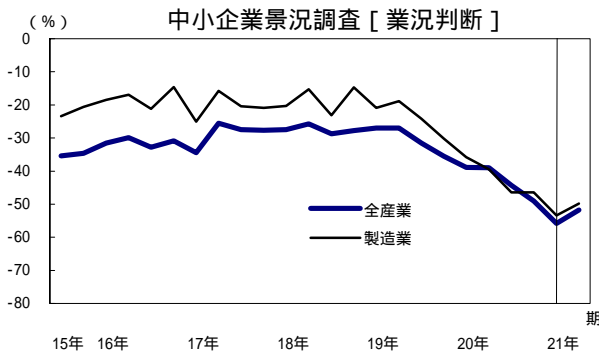
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

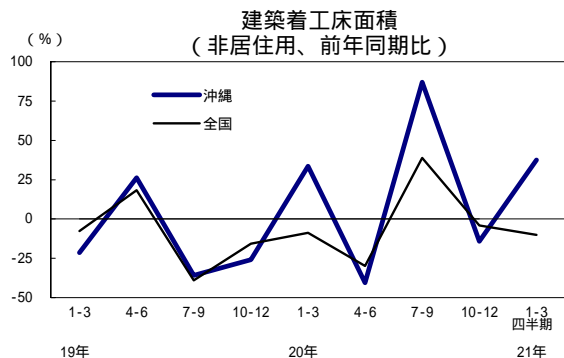
「4月の受注・売上は前年と比べて2割ほど落ちている(コピーサービス業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績見込み	21年度計画
全産業	11.9(3.0)	34.3
製造業	113.9(4.2)	50.3
非製造業	3.4(2.7)	31.5

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。石油・電力を除く。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電製品販売額及びコンビニエンスストア販売額

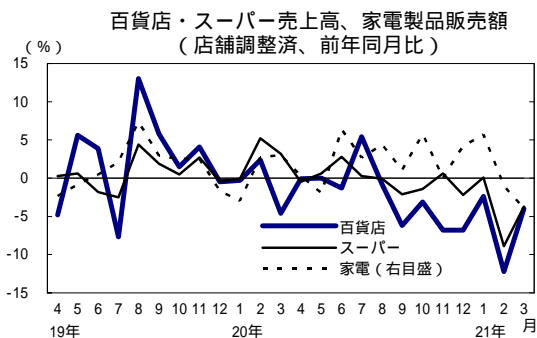
百貨店は、1月は、前年は2月であった旧正月が1月であったことなどにより、食料品は好調だったものの、それ以外の品目は前年を下回った。2月は、前年（うるう年）と比較して1日少なかったことなどによりすべての品目で減少し、前年を下回った。3月は食料品を除く多くの品目で前年を下回った。

スーパーは、食料品は好調だったものの、衣料品などが減少し前年を下回った。

家電は、デジタル家電の単価下落、量販店の仕入れ抑制などにより前年を下回った。

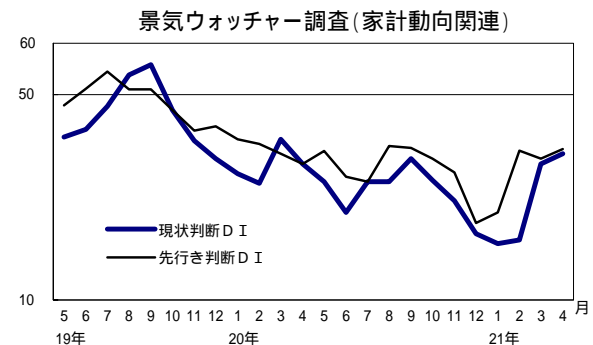
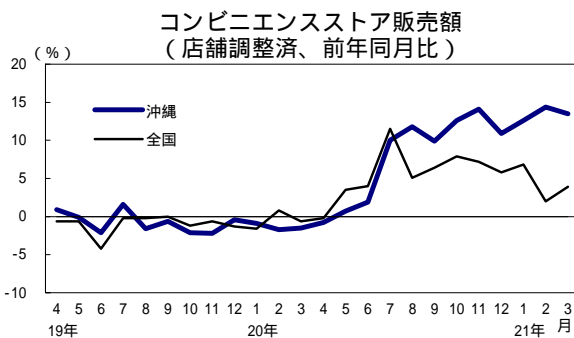
景気ウォッチャー調査（4月）[家計動向関連（現状）]

「特売日に客数が増え、通常日は減るとい状況であるが、その差が大きい。特売品を買いだめして、それ以外は必要分だけ購入する生活防衛意識の表れがみられる（スーパー）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月
百貨店	0.5	0.4	5.7	6.0
スーパー	1.0	0.6	1.1	4.1
家電製品販売額	3.6	5.3	6.6	0.8
コンビニ	0.6	10.6	12.5	13.4
景気ウォッチャー	32.2	34.5	28.5	26.4

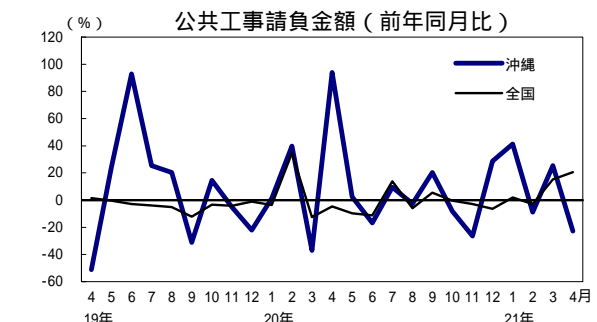
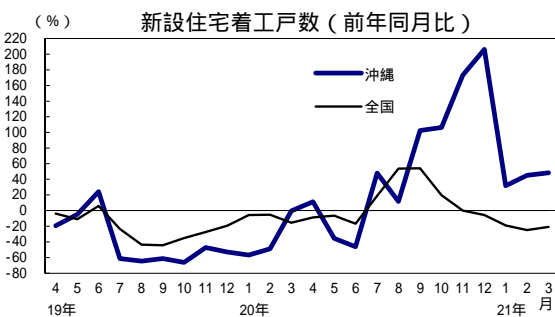
(備考) 1. 百貨店、家電(卸売ベース)は日本銀行那覇支店調べ。
2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ、店舗調整済。
3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家を中心に大幅に増加していることから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を上回っている。

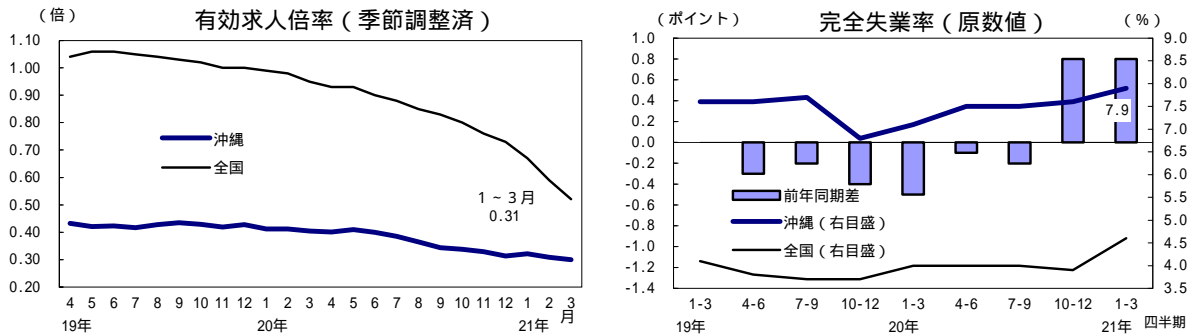


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

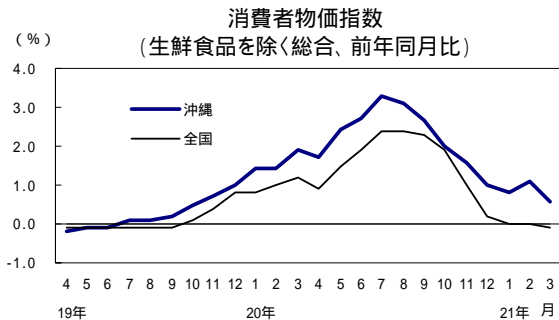
「建築土木の新規受注の仕事が無い。特に北部地区に関しては、建築関連、その他の求人も非常に少ない状態である(民間職業紹介所)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件, 億円, %)				
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月	21年4月
倒産件数	16	35	21	24	7
(前年比)	30.4	118.8	12.5	7.7	75.0
負債総額	50	607	25	95	12
(前年比)	13.2	3,904.6	25.6	112.5	90.8



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・県内ゴルフ業界は外資系を中心に料金の値下げをしている。基本的には単価を安くしても客が入らないという状況がある(ゴルフ場)

<先行き>

- ・県内の観光業を中心としてこれから業況が悪化すると見込まれる。採用環境も順次悪化してくる(学校[大学])

